

基本目標 6 地域資源を生かした活力あるまちをつくるために

施策 20 地域ゆかりの文化の保存と継承

目的

《対象》市民、文化遺産

《意図》文化遺産や伝統を後世に伝え、郷土への愛着をはぐくむ、文化遺産を保存し、学習素材やまちづくりに活用する

施策の方向

○歴史や地域ゆかりの文化・伝統を後世に残し、幅広い世代がふれることができるための基盤整備を推進します。

施策の達成状況

まちづくり指標	基準値	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	目標値
文化遺産の数（国・都・市指定等文化財）	69 件（H26）	69 件	69 件	71 件	72 件	-	79 件（H30）
実篤記念館の入館者数（実篤公園利用者含む）	2 万 9,764 人（H25）	2 万 9,764 人	3 万 4,385 人	3 万 7,149 人	3 万 1,200 人	-	3 万 500 人（H30）

その他

- 国指定史跡下布田遺跡の保存に向けた公有化（公有化率 93.48%）（平成 29 年度）
- 国指定史跡深大寺城跡の保存に向けた公有化
- 指定管理者による武者小路実篤記念館の運営
- 広域連携事業である「多摩川流域郷土芸能フェスティバル」への参加
- 深大寺白鳳仏「銅造釈迦如来倚像」の国宝指定（平成 29 年度）を契機とした広報・事業の展開

など

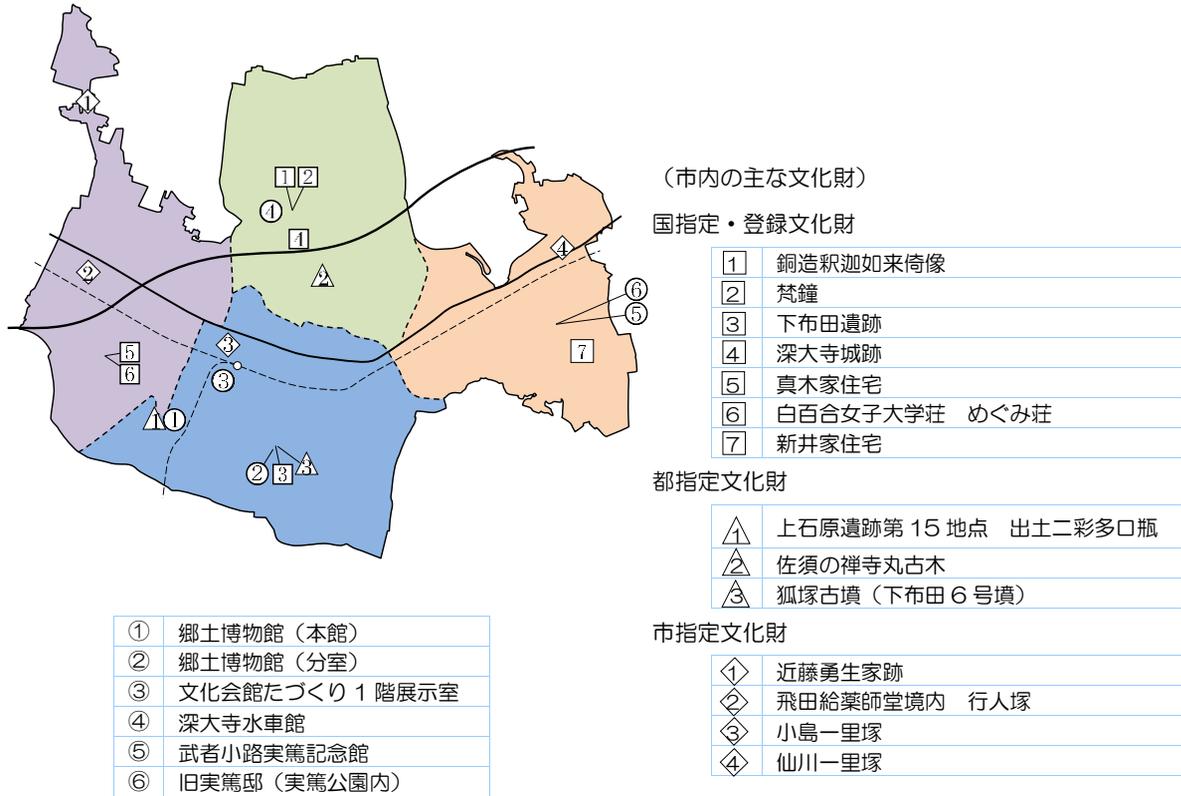
■ 現状と課題

- 市内には、郷土の歴史や文化・自然に関する様々な資料を展示している郷土博物館や、明治から昭和にかけて文学や美術をはじめ幅広い分野で活躍した武者小路実篤の生涯と業績を紹介する武者小路実篤記念館、実篤公園などの施設があります。
- 調布市には、縄文時代晩期の祭祀や墓にかかわる国史跡の下布田遺跡や、戦国時代前期の扇谷上杉氏の支城である国史跡の深大寺城跡、国登録有形文化財（建造物）である真木家住宅等の歴史・文化遺産があり、それぞれ保存や整備、活用に向けて取り組んでいます。
- 国史跡下布田遺跡、国史跡の深大寺城跡、国登録有形文化財真木家住宅について、現状を踏まえた今後の利活用を具体的に検討する必要があります。
- 郷土博物館では、郷土の歴史や文化・自然に関する様々な資料の展示や講座・講演会等の事業実施により、市民に地域ゆかりの歴史や文化遺産に触れる機会を提供しています。また、祭ばやし保存大会を開催し、地域の伝統芸能に触れる機会を提供しています。
- 深大寺の「銅造釈迦如来倚像（通称白鳳仏）」が国の官報告示をもって正式に国宝に指定されました。市としてこの慶事を契機に、深大寺との連携の下、様々な広報・事業展開を図り、東京 2020 大会開催に向け深大寺地区の魅力を一層高めていく必要があります。
- 武者小路実篤記念館では、武者小路実篤の生涯と業績を紹介しており、資料収集、収蔵品の展示、多様な普及事業、データベースやホームページによる情報提供、調査研究、レファレンスを行っています。

■ 次期基本計画策定に向けた主なポイント

- 市内に残る歴史・文化遺産は、次の世代に着実に継承すべき貴重な財産です。文化財の所有者や関係する団体などと協働し、国宝に指定された白鳳仏を含め、歴史・文化遺産の適切な保護と活用に引き続き努めるとともに、市内の関係各課や市民団体と連携を図る必要があります。
- 一般財団法人調布市武者小路実篤記念館が指定管理者となり4年が経過します。今後も指定管理者の努力による効果的・効率的な施設の管理運営に努めるとともに、充実した事業展開を進める必要があります。

◆博物館・文化財等の位置

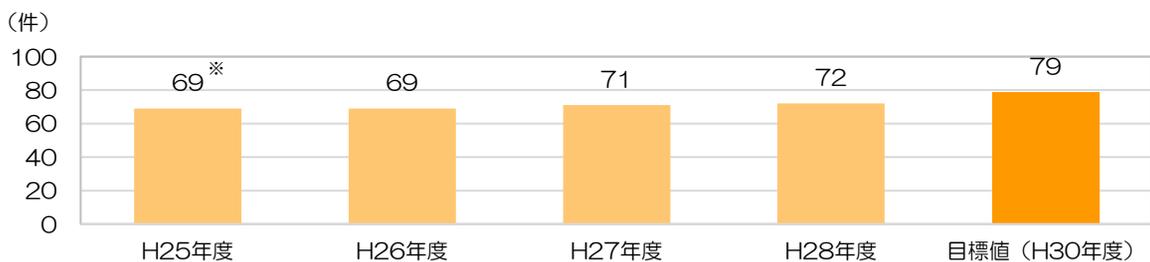


資料：郷土博物館

20-1 歴史・文化遺産の保存と継承・活用

【まちづくり指標】文化遺産の数

平成26年度以降年々増加しております

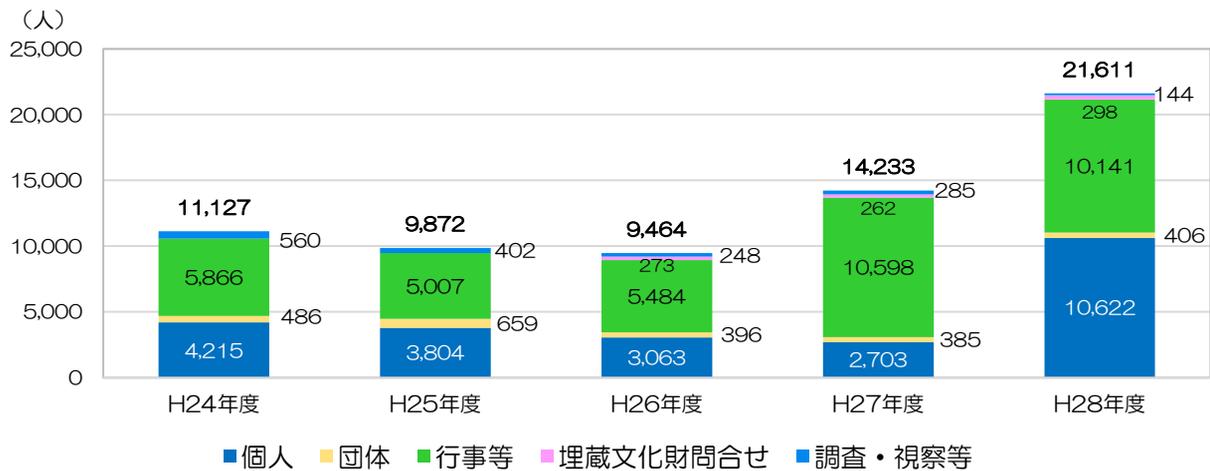


資料：調布市行政評価

※平成26年4月官報告示6件含む

◆郷土博物館の展示・普及事業等の参加者数

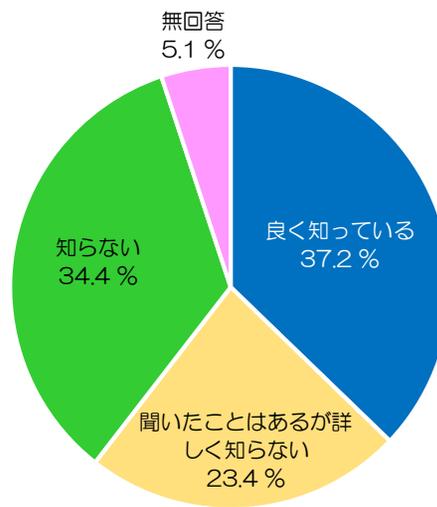
近年参加者数は増加傾向であり、個人と行事等では平成 28 年度は平成 24 年度の 2 倍近くとなっています



資料：調布市事務報告書（郷土博物館）

◆深大寺白鳳仏の国宝指定を知っている市民の割合（平成 29 年度）

「良く知っている」と「聞いたことはあるが詳しく知らない」をあわせると、6 割以上の市民が深大寺白鳳仏を知っています



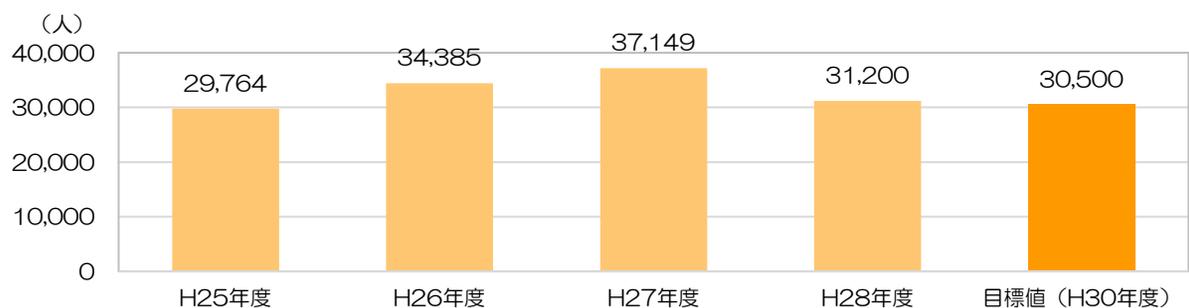
資料：調布市民意識調査（平成 29 年度）

20-2

武者小路実篤を核とした地域ゆかりの歴史文化・資源の保存と継承・活用

【まちづくり指標】実篤記念館の入館者数（実篤公園利用者含む）

平成 27 年度までは増加していましたが、平成 28 年度は 11 月から 3 月までの空調設備の全面改修を行うための臨時休館の影響で減少しています



資料：調布市事務報告書（実篤記念館）

多様な主体との連携事例

第 60 回調布市郷土芸能祭ばやし保存大会

市指定無形民俗文化財「調布の祭ばやし」の保存と後継者育成を目的に、その保持団体である祭ばやし保存会（平成 28 年度末現在、大人はやし連 11 チーム・子供はやし連 4 チームで構成）との協働（調布市・調布市教育委員会・調布市郷土芸能祭ばやし保存会共催）により、文化会館たづくり「くすのきホール」等において年 1 回、お互いに対等な関係で祭ばやし保存大会を実施しています。

【所管課】

教育部 郷土博物館

【協働のパートナー】

調布市郷土芸能祭ばやし保存会



＜第 60 回調布市郷土芸能祭ばやし保存大会の様子＞

多様な主体との連携事例

多摩川流域連携会議における構成各市区との連携

多摩川流域の 11 自治体（平成 30 年 2 月末現在）が、多摩川をテーマとした連携を企画・展開することを目的に、平成 25 年 5 月から多摩川流域連携会議を開催しています。

会議では、共通する行政課題や広域的な課題等について意見交換を行うほか、多摩川流域自治体イベントラリーや多摩川流域郷土芸能フェスティバルでの連携した取組など、各市区の若手職員相互の人事交流・人材育成も目的に、自治体の域を越えた広域的な視野で課題を捉え、連携して多摩地域の魅力向上に取り組んでいます。

【所管課】

行政経営部 政策企画課

【協働のパートナー】

多摩川流域連携会議（大田区、世田谷区、八王子市、府中市、調布市、日野市、狛江市、多摩市、稲城市、町田市、川崎市）



＜多摩川流域連携会議の様子＞



＜多摩川流域自治体イベントラリーのポスター＞